

「ベトナム AIDS 予防教育センター」設立

ベトナムで AIDS 予防教育プログラムを実施することになり、ホーチミン市のベトナム国立医科薬科大学(略称 UMP) 内に「AIDS 予防教育センター」を設立しました。本年 1 月から教育活動を実施します。

PHJ はタイで 8 年間にわたり「AIDS 予防教育」を実施し、ピアトレーニング法により大きな教育成果を収めました。この成果は国際的にも高く評価され、同じ悩みをかかえるベトナムから「こちらの若者にも教育してほしい」との要望が来ていました。そこで 2008 年 10 月に、PHJ の日本とタイスタッフが現地を訪れ

て UMP と協議した結果、センター設立を行いました。UMP 側では Vice President の Dr.Tuan を責任者とし、Dr.Phong (小児科医、33 才) がコーディネータに指名され、ベトナム側の種々アレンジを行います。

今後はタイスタッフが毎月ホーチミン市を訪れ、2009 年 6 月までに UMP 大学生 35 人をマスタートレーナーに仕上げ、彼らがベトナムの大学・高校生 350 人のピア教育を目指します。現在教材のベトナム語化など準備を行っています。

(須見 彰・渡邊 典夫)



センター設立写真



大学構内 (バックは新病院建設中)

巻頭言

全日病も応援しております！



ピープルズ・ホープ・ジャパン
理事

西澤 寛俊

全日本病院協会会長

西岡病院理事長

全日病とピープルズ・ホープ・ジャパン (PHJ) の関係は、秀嶋宏先生 (秀島病院理事長) が全日病会長でおられた 1997 年に PHJ 理事に就任されてから 11 年になります。秀嶋先生の後、佐々英達先生 (佐々総合病院理事長) が引き継がれて昨年 8 月に私が就任しました。

PHJ は保健分野の NGO としてインドネシア、カンボジア、タイに現地事務所を設け、貧民地域住民の健康医療改善に向けて教育を中心とした地道な活動を続けています。いずれの地域でも母子保健

教育が不十分なため、妊産婦や乳幼児の死亡率が高く、例えばカンボジアでは日本に比べて 30 ~ 40 倍の劣悪な状況と聞いています。PHJ の保健教育支援は極めて重要な改善活動と思います。また現地の医療機器は相当に古く、開発途上国では古い機器がいつまでも大事に使われており、中には代替がなく故障のまま使用されているものもあると聞いており、日本の中古医療機器はとて役に立ちます。

全日病は過去に全日病ニュースで「中古医療機器寄付」や「PHJ への入会」を呼びかけた結果、多くの中古医療機器が集まり、PHJ 会員として応援されている病院も多く喜ばしい限りです。今後とも保健分野で日本を代表する国際医療支援団体として活躍されることを願います。私は今まで全日病が PHJ を応援してきた方策を一層伸ばし、会員の協力を呼びかけたいと思いますので、どうぞ頑張ってください。

インドネシアのバリ島は日本人をはじめ世界中から観光客が集まるリゾート地で、地上最後の楽園とも言われている。

2008年10月29日から11月8日まで、観光客は行かないバリ島のギアニア地区にあるギアニア病院へ超音波検査の研修に伺った。実は今年1月に第1回目の研修に行っているため、今回が2度目の訪問となった。

研修の目的はPHJが支援・導入した超音波診断装置を救急外来の医師が有効に使用し、医療の質を高め患者さんに役立てることである。1月の第1回目は電源の入れ方や装置の取り扱いに始まり腹部全体を隈なく描出する操作方法を中心に研修を行った。そして今回の研修では1日約10名、実際の患者さんの検査を行いながら超音波検査で多くの病気が診断でき、患者さんの治療に役立つことを体験してもらうことが目的となった。

患者さんは経済的な理由から症状があってもぎりぎりまで我慢をして病院へ来るため、最近の日本では遭遇することの無い病気の進行した状態で検査が行われた。肝臓癌の腫瘍塞栓が肝静脈、下大静脈から右心房まで大きく進展しているもの、卵管炎の炎症がお腹全体に波及しているもの、腎癌、膀胱癌、膵癌・腹膜播種、悪性リンパ腫なども進行している例が多かった。また、深部静脈血栓症、尿管結石、胆石・胆嚢炎、緊急手術となった急性虫垂炎、その他多くの症例を短い期間に経験し実際に先生たちに検査をしてもらうことがで

きた。超音波検査が重要で面白いこと、役に立つことを十分理解して頂けた事と思う。

また、バリ島では病理の医者は6名しかおらず病理診断の体制が整っていない事も分かった。病理の診断料も患者負担となるためほとんど行われず、腫瘍が何であったか患者も医師も誰も分からないのが現状であった。

このような貧困と医療事情の中、今回もバリ島で楽園を探し出すことはできなかったが、チェックポイントを復唱しながら検査をしている先生たちの純粋さや真剣さ、また研修の成果に触れ感激し、終了時にはお互い涙が止まらなかった。

将来、ギアニア病院の救急の医師たちが超音波検査をマスターし中心となって、バリの他の医師達に超音波研修を行い広めてもらうことが今後の大きな目標となった。今回は2度目の訪問であり、体調もよく病院の食事や環境にも十分親しみ、昼食にでた魚を手で食べるまでに馴染んでいた。また、100名近くの小学生が集まるお絵かき大会にも参加させていただき、子供たちの純粋な瞳を見て大きなエネルギーをいただき心が温かくなった。

最後になりますが同行していただいたPHJの伊藤さんの生き方、病院やインドネシアの人々を思う強い愛情に触れることができ感動しました。PHJ関係の皆様、今回研修の機会をいただきありがとうございます。



救命医師たちと（前列中央：筆者）



研修風景

新規事業地での保健ボランティア・産婆ワークショップ

カンボジア事務所では、村のお母さんと赤ちゃんが分娩という最初の出会いを安全に迎え、その後健康な生活を送るための事業を行っています。主に、村に一番近い医療機関であり、地域の保健の担い手である「保健センター」でのサービス向上を目指しています。

村の保健状況を良くするためには、保健センターの努力だけではなく、村人の協力が欠かせません。昔から村にはお産婆さんがいて、村の女性たちの出産を介助したり、健康相談にのっていました。お産婆さんたちは、通常、特に訓練を受けたわけではなく、見よう見まねで村の母子の健康面での世話を担ってきました。人によってはまじないのような「治療」を施す人や薬草を使う人もいます。今でも村人のお産婆さんへの信頼は絶大です。

また、カンボジアの各村には、2名ずつ保健ボランティアが村内の選挙で選出されています。彼らの役割は、保健センターの村内での活動を手伝うこと、村の保健状況を保健センターに伝えること等、様々あります。保健ボランティアの役割は

強化されなければなりません。

このような保健にかかわる村人を活動に巻き込むことは、村にとっても保健センターにとっても、必要なことと考えています。カンボジア事務所は、保健センターと協働で、毎月村の産婆さんや保健ボランティアとの会議を行い、保健状況の情報交換を促進しています。また、保健ボランティアと産婆を対象としたワークショップを開催し、様々な保健知識を学ぶ機会を提供しています。彼らが正しい保健知識をもって村人の健康増進のために活躍してくれることを期待しています。

(中田 好美)



クメール伝統楽器寄贈

あるドナー様より、「音楽への支援」を希望するお話があり、カンボジアでクメール伝統楽器を学校に寄付することになりました。寄付された楽器は、カンボジア語でピンピアと呼ばれる打楽器のアンサンブルやマハオリと呼ばれる弦楽器のアンサンブルです。

現在のところ、カンボジアの学校教育では音楽の授業はありません。楽器を使ってもらうことを主眼とした寄付だったので、音楽の先生がいる学校を探し、コンポントム州で5ヵ所設置されている



「コミュニティ・ラーニング・センター」と音楽の先生がいる小学校2校に寄付するこ

とにしました。コミュニティ・ラーニング・センターとは、様々な理由で学校に行けなくなった子供や青年が気軽に通うことができる職業訓練を行う村のセンターです。もちろん、誰でも受け入れているため、学校に行っている子供や青年たちも学ぶことができます。クメール伝統音楽は、教科のひとつとして教えられています。

11月6日にはじめての寄贈が行われました。州教育局の担当者、コミュニオン長、学校の先生、PHJスタッフ、楽器製作者が出席して贈呈式を行いました。コミュニオン長からは、地域の人を代表して、「このような立派な楽器をもらい、非常にうれしい。村の全員で大切に、子供たちがカンボジアの伝統音楽を学べるようにしたい」との感謝の言葉をいただきました。

一年後に、それぞれの学校の小さな演奏家を集めてコンサートを開きたいと考えています。楽しみです。

(中田 好美)

会員のひろば



「それでも明るい未来を
子どもたちに託したい」
名倉正人 (ホープパートナー会員)

毎朝、地域安全ボランティアで小学校の通学路に立っていると、白い息を吐きながら集団登校してくる子どもたちのにぎやかな話声と輝く瞳に、こちらが元気の素をもらえます。われわれ庶民には無縁の莫大な投機マネーと怪しげな金融商品が招いた、人災ともいえる世界同時不況、食糧価格の高騰。そして絶えない地域紛争と自然災害。豊かな将来を夢見て、高度成長バブル時代をひたすら駆け抜けてきて、いま、その結果である目の前の騒然とした世界に暗澹たる思いが募ります。そんななかでいつも社会的弱者の子供たちが真っ先に犠牲を強いられてきました。しかし、世界の紛争地域や貧困にあえ

ぐ国々、自然災害に襲われた地域にあっても、報道で見る子どもたちのあの輝く瞳に、未来へ託す希望を見つけられた気がします。そしてそんな子どもたちを貧困や飢餓、病気から守る手助けのために、遠い地の過酷な環境のなかに飛び込んで活躍する多くの若者たちが、確かにいることに勇気づけられます。なかでも PHJ は、人々が生きていく上で必須の健康と医療の自立支援のために、地道かつ着実に、すべてが見える透明性の高い活動をすすめておられます。賄賂が飛び交い、誰のための何のための支援なのか不透明な国家間の大型プロジェクトとは違って、会員が信頼して応援できる活動です。現地日々奮闘しておられる PHJ の若い(もちろんベテラン世代も含めて)スタッフの方々のご健康を祈りつつ、これからも一会員として微力ながら応援させていただきたいと思っております。

タイ活動報告

1998 年以來、プロジェクトホープ・タイランド (PHT) はピープルズ・ホープ・ジャパン (PHJ) のサポートを受けてきました。PHJ からの技術的・資金的支援によりタイでは6つのプログラムを遂行し、10万もの貧しいあるいは障害を持つ子供達の家庭を支援してきています。2007 年からはチェンマイで行っている

HIV/AIDS 予防教育を、ベトナムの若者向けとして水平展開できるようになりました。

2008 年 10 月には、

タイ労働省の認可を受け、PHT は Project HOPE より PHJ へ移管され、完全に PHJ の管理下になりました。今後のタイおよびベトナムで展開するプログラムの直接の支援が PHJ から受けられることを、タイのスタッフ (写真) 一同大変喜んでます。今後も更なる革新的および効果的支援を、タイの非常に貧しい、あるいは障害を持つグループ対象に、さらにはベトナムにも継続的に展開していきます。

タイでの最近の活動トピックスとしては、

- 1) 2002 年より行っている、国立障害児専門病院 (RICD) への支援に対し保健省より PHJ に対し感謝状を受領しました。
- 2) 2002 年以來チェンマイ保健局主催で実施されている、ワールド・エイズ・デイに今年も参画し、無事終了しました。

(タイ所長 ジラナン)



発行：ピープルズ・ホープ・ジャパン / 発行責任者：須見 彰 / 編集人：別所 信子、藤田 憲次郎 / 発行日：2009 年 1 月 1 日
〒 180-8750 東京都武蔵野市中町 2-9-32 TEL：0422-52-5507 FAX：0422-52-7035
E-mail：info@ph-japan.org ホームページ：<http://www.ph-japan.org>

今日からあなたも地球人 個人会員・ホープパートナー会員募集中!

FAX 0422-52-7035

ピープルズ・ホープ・ジャパン 行

個人会員申込書 会費3,000円/年・口× 口 = 円/年

ホープパートナー会員申込書 会費3,000円/月

の中にチェック☑を入れて下さい。

ふりがな

氏名

電話

—

—

自宅住所 〒

勤務先

電話

—

—

お申込みは、郵送、FAX、ホームページなど、どのような方法でも結構です。後程送金方法を連絡させていただきます。